

警告 安全のために

警告表示の意味

「取り付けと接続」および取扱説明書、製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

- 警告** この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。
- 注意** この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



警告

火災

感電

下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

本機はDC12Vマイナスアース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車など、24V車で使用すると火災などの原因となります。



助手席用エアバッグシステムの動作を妨げないように取り付ける

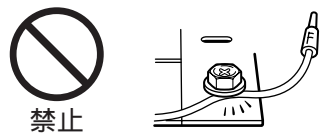
動作の妨げになる場所に取り付けると、エアバッグが正常に動かず、けがの原因となります。



運転操作や車体の可動部を妨げないように取り付ける

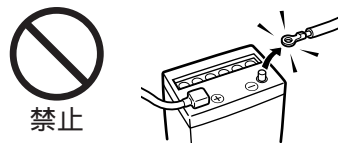
運転の妨げになる場所、車体の可動部の妨げになる場所に取り付けや配線をする、事故や感電、火災の原因となります。

- ネジやシートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない。
- コード類はまとめる。
- ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどが正しく操作できることを確認する。



配線作業中は、バッテリーのマイナス端子を外す

マイナス端子をつないだまま作業をすると、ショートにより感電の原因となります。



ステアリングやブレーキ系統、タンクなどにある車の性能を維持するための部品を使わない

車体のボルトやナットを利用するとき、ステアリングやブレーキ系統、タンクなどの部品を使うと、制動不能や火災の原因となります。

パイプ類、タンク、電気配線などを傷つけない

火災の原因となります。車体に穴を開けて取り付けるときは、パイプ類、タンク電気配線などの位置を確認してください。

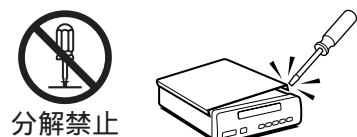


雨、水がかかる場所、湿気、ほこりの多い場所には取り付けない

上記のような場所に取り付けると、火災や感電の原因となります。

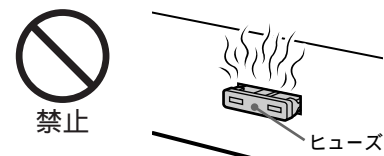
分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ると、リード線の電流容量を超えてしまいます。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ずヒューズに記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を超えるヒューズを使うと、火災の原因となります。



注意

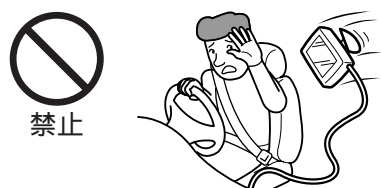
下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

付属の部品で正しく取り付ける

他の部品を使うと、機器の内部を傷つける、しっかり固定できないなどで、火災やけがの原因となることがあります。

安定した場所に取り付ける

振動の多いところや、天井などに取り付けると、製品が動く、落ちるなどにより、事故やけがの原因となることがあります。



本機の通風口や放熱板をふさがない

通風口や放熱板などをふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



アンテナは車体からはみ出さないよう取り付け

歩行者などに接触し、事故の原因となることがあります。



FM/AM コンパクトディスク プレーヤー

取り付けと接続

お買い上げいただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

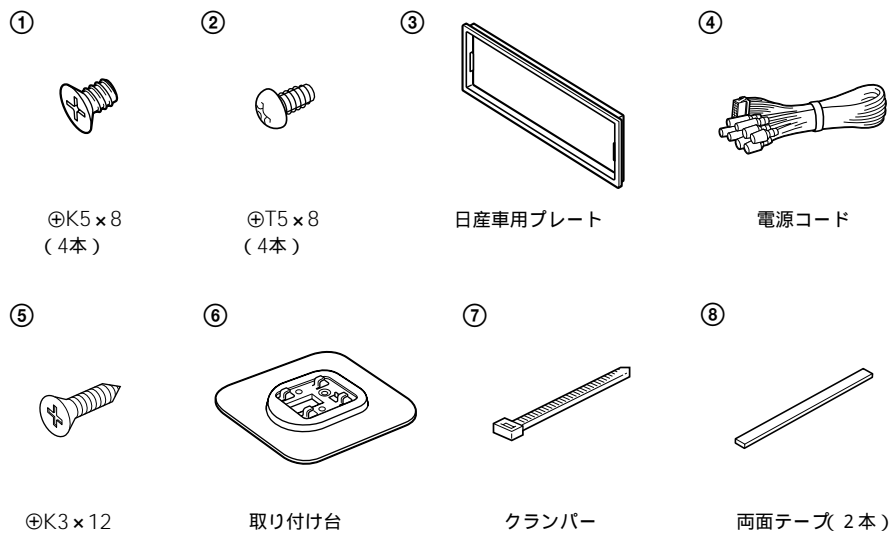
この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。この「取り付けと接続」および別冊の取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

取り付けはお買い上げ店に依頼する
本機の取り付けは車種や年式により異なり、専門知識が必要です。万一、ご自分で取り付けるときは、この「取り付けと接続」に従って、正しく取り付けください。正しい取り付けをしないと、火災や感電または自動車の損傷の原因となります。

CDX-C7200

Sony Corporation © 1998 Printed in Japan

取り付け/接続部品(付属)

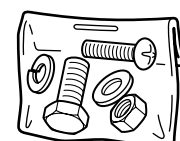
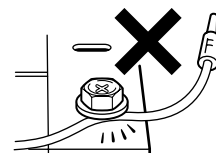


取り付け場所

- こんな取り付け場所はお避けください。
- 運転の妨げになる所
 - 同乗者の安全を損なう所
 - グローブボックスのふたの開閉や、灰皿の出し入れの妨げになる所
 - ほこりの多い所
 - 磁気を帯びた所
 - 直射日光やヒーターの熱風などが当たる所
 - 雨が吹き込んだり、水がかかる所、湿気の多い所

ビス・ナット類

- 必ず付属のビス類をお使いください。
- ビスやナットを締めるとき、他の配線を噛みこまないようにご注意ください。
- 車体のボルトやナットを使って共締めやアースをするとき、ステアリングやブレーキ系統のものは絶対に使わないでください。
- 外したビス類は、小箱や袋に入れて紛失しないようにしてください。
- 外すビスの種類が多いときは、混同しないようにしてください。



取り付け

ご注意

本機上面にある4個の周波数調整用ネジにはさわらないでください。故障の原因になります。

取り付け角度

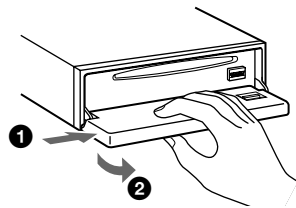
水平から+60度以内で取り付けてください。

フロントパネルについて

本機のフロントパネルは取り外すことができます。必ずフロントパネルを取り外してから、本機を取り付けてください。

取り外し

必ず、OFFボタンを押して本機の電源を切ってから、OPENボタンを押してフロントパネルを開けます。図のようにフロントパネルを右に押しながら左側を手前に引いて取り外してください。



取り付けと接続が終わったら

- ブレーキランプやライト、ホーン、ウィンカー、ワイパーなど、すべての電装品が正しく動くことを確かめください。
- 必ず、リセットボタンをボールペンの先などで押ししてください。針のようなもので強く押すと故障の原因となります。

リセットボタン

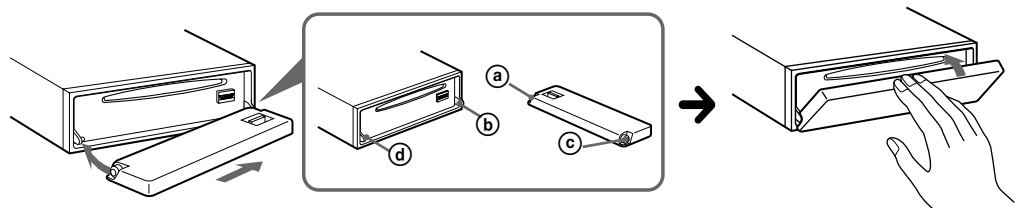


インバーターの取り付け

- 市販の両面粘着テープなどを使用して本機からなるべく離れたところに取り付けてください。
- インバーターのコードは、RCAピンコードやその他の接続コードといっしょに束ねないでください。
- マットの下やエアコンの水がかかるようなところには取り付けないように注意してください。
- インバーターのコードが何かにはさまれているとディスプレイの表示が出ないことがあります。

取り付け

フロントパネルの③部分と本体の⑥部分を合わせて、フロントパネルを押し込み、フロントパネルの④部分と本体の④部分を合わせて取り付けます。



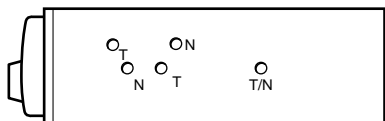
センターコンソールやインダッシュに取り付ける場合

トヨタ車、日産車、三菱車のほとんどは純正カーオーディオを外して、そのあとに本機を取り付けられます。取り付け可能車はお買い上げ店にお問い合わせください。

お車が上記以外のときは、別売りの取り付けキットが必要です。お買い上げ店にご相談ください。

ご注意

- 純正ブラケットを本機に取り付けるとき、本機側面に刻印されている〔トヨタ車/三菱車用〕、〔日産車用〕マークにブラケットの取り付けネジ穴を合わせて、付属の皿ネジ①で取り付けてください。
- 三菱車の純正ブラケットに本機を取り付けるときは、必ず付属の三菱車用トラスネジ②で取り付けてください。



1 純正カーオーディオを取り外します。

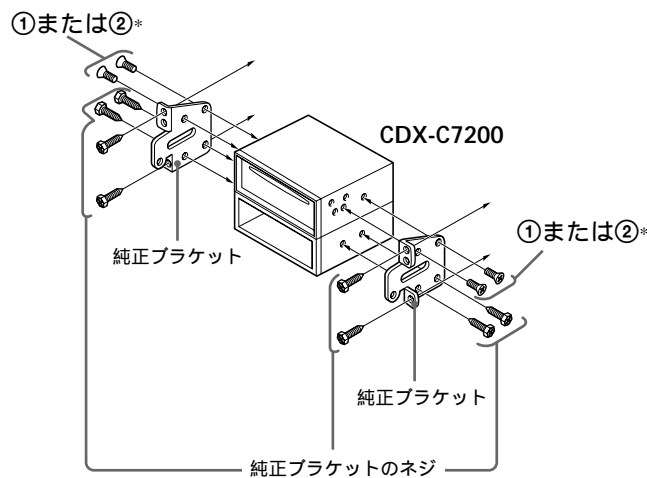
センターコンソールやインダッシュから純正オーディオを取り外し、カーオーディオを取り付けていた純正ブラケットを利用して、本機を取り付けます。

2 本機を取り付けます。

接続例を参照して、センターコンソールやインダッシュに取り付けてください。

トヨタ車/三菱車の場合(イラストはトヨタ車の場合)

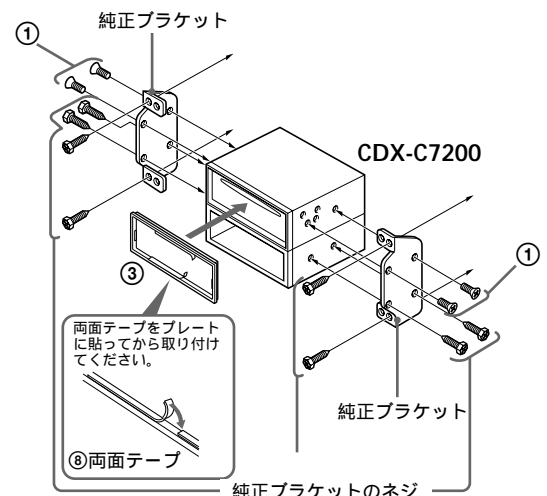
①と②のネジは取り付け車両により使い分けてご使用ください。三菱車に本機を取り付ける場合は②のネジをご使用ください。



ご注意

- 本機のフロントパネルの表示窓を押ししたり、ボタンに強い力を加えたりしないでください。
- 本機の上部に物をはさまないでください。

日産車の場合

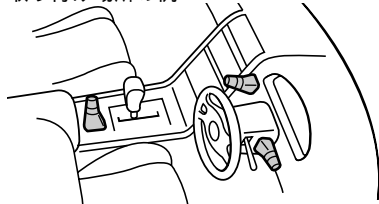


* 付属の皿ネジ①またはトラスネジ②で取り付けてください。他のネジを使用すると故障の原因になります。

ロータリーコマンドの取り付け例：ステアリングコラムカバーに取り付ける場合

ステアリングコラムカバーやダッシュボード、センターコンソールなどの、操作しやすい場所に取り付けてください。

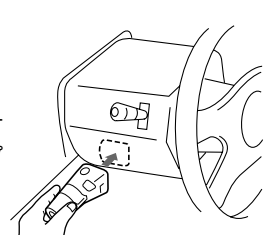
取り付け場所の例



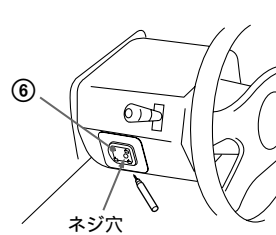
ご注意

- 運転の妨げにならない場所(ステアリング操作やレバー操作に影響のない場所)に取り付けてください。
- 同乗者の安全を損なうおそれのある場所には取り付けしないでください。
- 取り付けるとき、車の配線コードなどを傷つけないよう十分注意してください。
- 直射日光や、ヒーターの熱風が当たるなど高温になる場所には取り付けしないでください。
- ロータリーコマンドのコードは無理に引っばったり、はさみ込み、かみ込みをしないようにしてください。

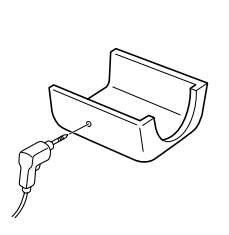
1 取り付け場所を決め、取り付け場所の表面をきれいにします。ごみや油などが表面に付着していると両面テープの接着力が低下します。



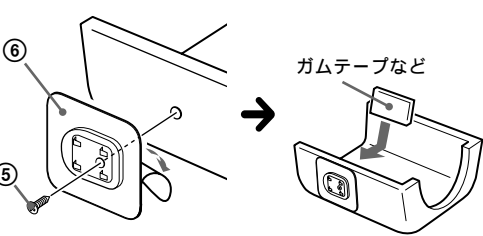
2 取り付け場所にネジ穴用の印を付けます。印を付けるには取り付け台⑥にあるネジ用の穴を使います。



3 コラムカバーを外し、印をした場所にφ2mmのネジ穴を開けます。



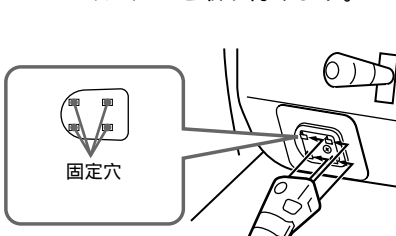
4 取り付け場所の表面と取り付け台⑥の両面テープをヘアドライヤーなどで20～30℃に温め、ネジ位置と合わせながら取り付け台⑥を強く押し付けて接着します。そのあと付属のネジ⑤で取り付けます。



ご注意

- ネジを締めたあと、コラムカバー裏側に飛び出したネジの先端をガムテープなどで覆い、コード類の損傷を防止してください。
- 取り付け台⑥が取り付けにくいときは、コラムカバーに合わせて切ってお使いください。

5 ステアリングコラムにコラムカバーを取り付け、コマンド底面にある固定穴(4か所)を取り付け台のツメの部分に合わせてコマンドを取り付けます。



ご注意

- ステアリングコラムにコラムカバーを取り付けるとき取り付け台を固定しているネジとステアリングの回転部分や操作レバーの作動部分、コード類などが接触していないことを必ず確認してください。

接続 必ず接続先の機器に付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ショート事故を防ぐために

本機の電源コードの接続は、必ずイグニッションキーをOFFにして、すべての配線をすませてから行ってください。先に電源コードを接続すると、ショートにより感電や製品の破損の原因となります。万一、先に電源コードを接続して配線しなければならぬときは、はじめにバッテリーのマイナス端子を外してください。

ただし、ドライブコンピューターやナビゲーションコンピューターが取り付けられている車では、バッテリーのマイナス端子を外すとメモリー内容がすべて消えてしまうことがあります。

純正アンテナブースターの接続

車種（一部のバーアンテナ車種を含む）によっては、純正アンテナブースターに電源を供給する必要があります。この場合は青色コードを純正アンテナブースターにつなぐか、アクセサリ電源から電源をとるようにしてください。くわしくは、お買い上げ店にご相談ください。

パワーアンテナをお使いになる場合

本機裏面から出ている青色コードをパワーアンテナ（リレーボックス付き）に接続してお使いになると、ラジオの電源が入ったとき*にパワーアンテナが自動的に出ます。

*SOURCEボタンを押してラジオを選んだとき、またはFM文字多重放送を受信しているとき（別売りのFMX-88などを接続したとき）

大出力パワーアンプをお使いになる場合

より良い音で楽しんでいただくために、以下の調整をしてください。

ソニーのパワーアンプをお使いのとき

LEVEL（またはGAIN）の調整つまみをMIN側にしてください。

他社のパワーアンプをお使いのとき

マスターユニットのボリュームを、真ん中より少し上ぐらいにした時に適度な音量になるように、パワーアンプのLEVEL（またはGAIN）を下げてください。

初期設定が必要なスイッチ

イグニッションキーにアクセサリポジションのない車でお使いになる場合

パワーセレクトスイッチ

必ず本機底面にあるパワーセレクトスイッチを①の位置に合わせてください。この場合、赤色の電源コードは黄色コードと同じところ（バッテリー電源）へ接続してください。パワーセレクトスイッチが②の位置のままお使いになると電源が切れずバッテリーが消耗します。

別売りのイコライザーや、DSPを接続する場合

音声出力/入力切り換えスイッチ

必ず本機底面にある音声出力/入力切り換えスイッチのラベルをはがし、スイッチを②の位置に合わせてください。サブウーファー出力は音声出力として、音声出力/入力端子は音声入力端子として機能します。

FMダイバーシティアンテナをお使いになる場合

FMダイバーシティアンテナ入力切り換えスイッチ

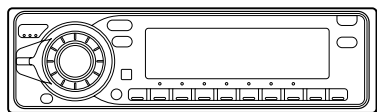
必ず本機底面にあるFMダイバーシティアンテナ入力切り換えスイッチをONの位置に合わせてください。

- FMダイバーシティアンテナの接続が違っていると、雑音が増加し、正常な受信ができなくなります。
- 本機のダイバーシティアンテナは、トヨタ車のダイバーシティ対応車種の場合、そのまま接続してお使いになれます。他の車種でお使いになる場合は、別売りの変換アダプターが必要です。

FMダイバーシティアンテナをお使いにならない場合

通常1本のアンテナをお使いになる場合は、必ず本機底面にあるFMダイバーシティアンテナ入力切り換えスイッチをOFFの位置に合わせてください。サブコネクターのアンテナに接続すると正しく受信できません。

先の細いドライバーなどを使って切り換えてください。強く押さないようにご注意ください。

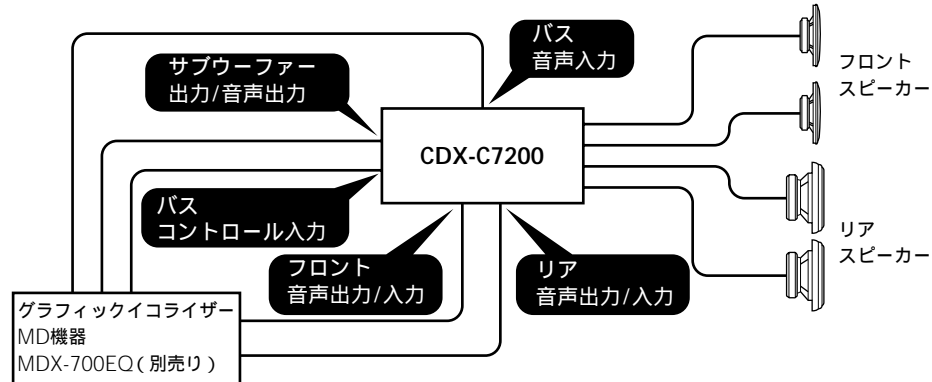


スイッチの位置を変えたときは、電源の接続をしたあとに必ずリセットボタンを押してください。

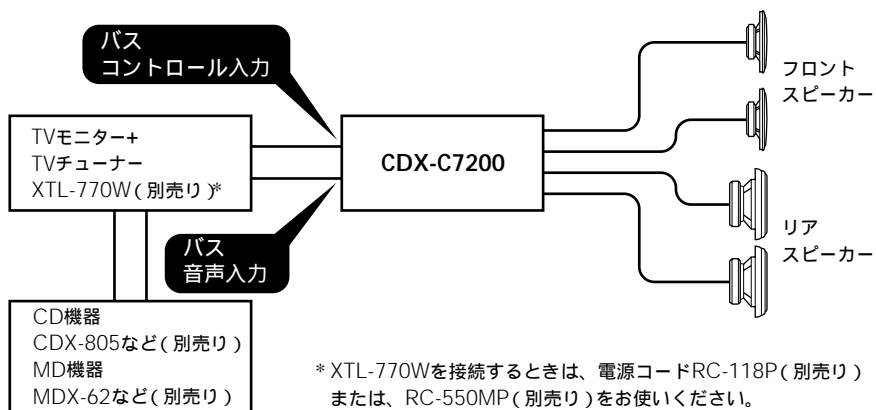
システム接続例

2台以上の機器を接続する場合、別売りのソースセクターXA-C30が必要です。

接続例1 音声出力/入力切り換えスイッチを②の位置にしてください。

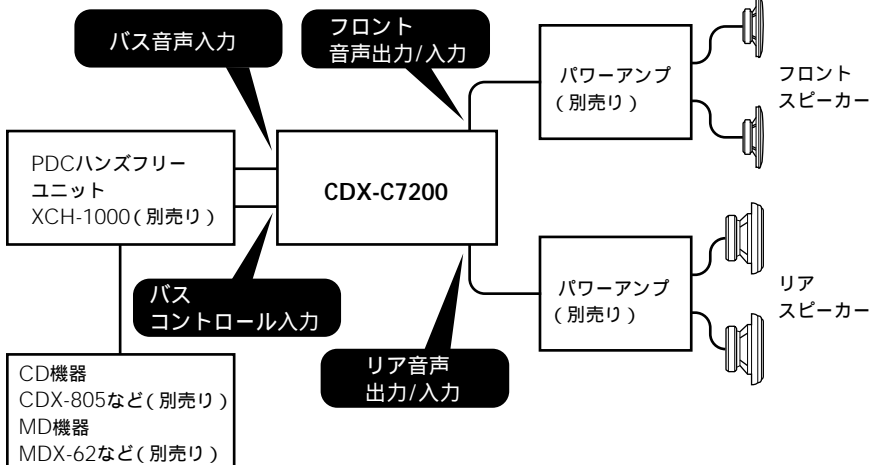


接続例2 音声出力/入力切り換えスイッチを①の位置にしてください。

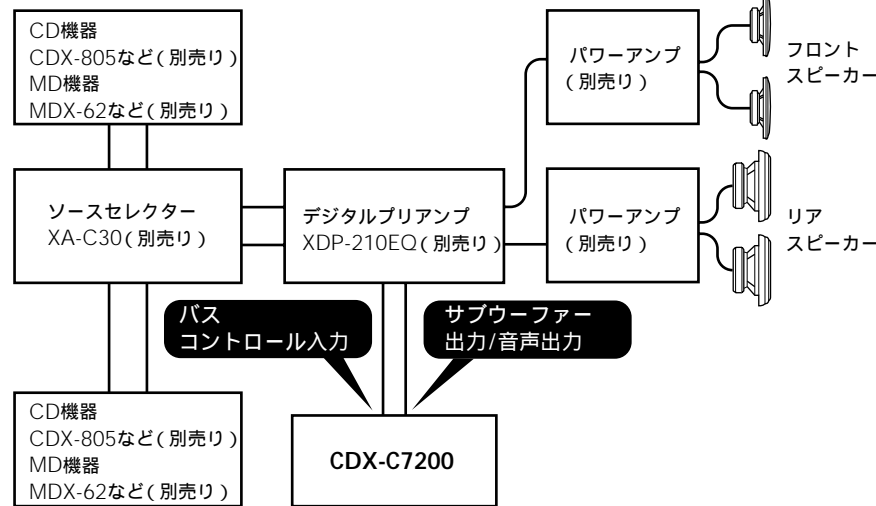


*XTL-770Wを接続するときは、電源コードRC-118P（別売り）または、RC-550MP（別売り）をお使いください。

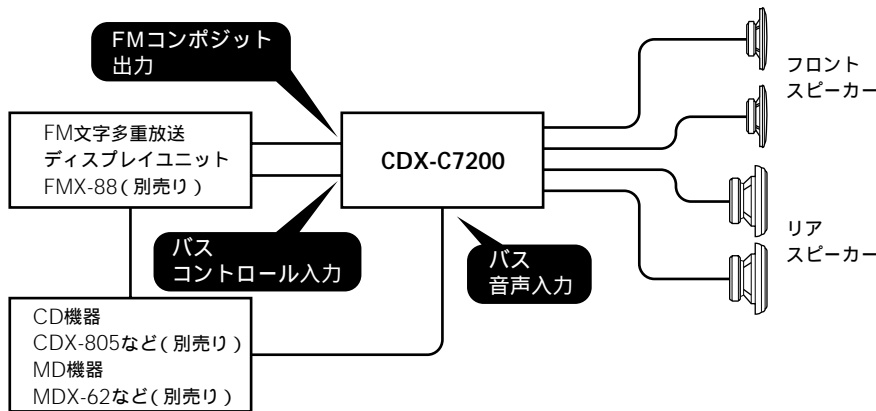
接続例3 音声出力/入力切り換えスイッチを①の位置にしてください。

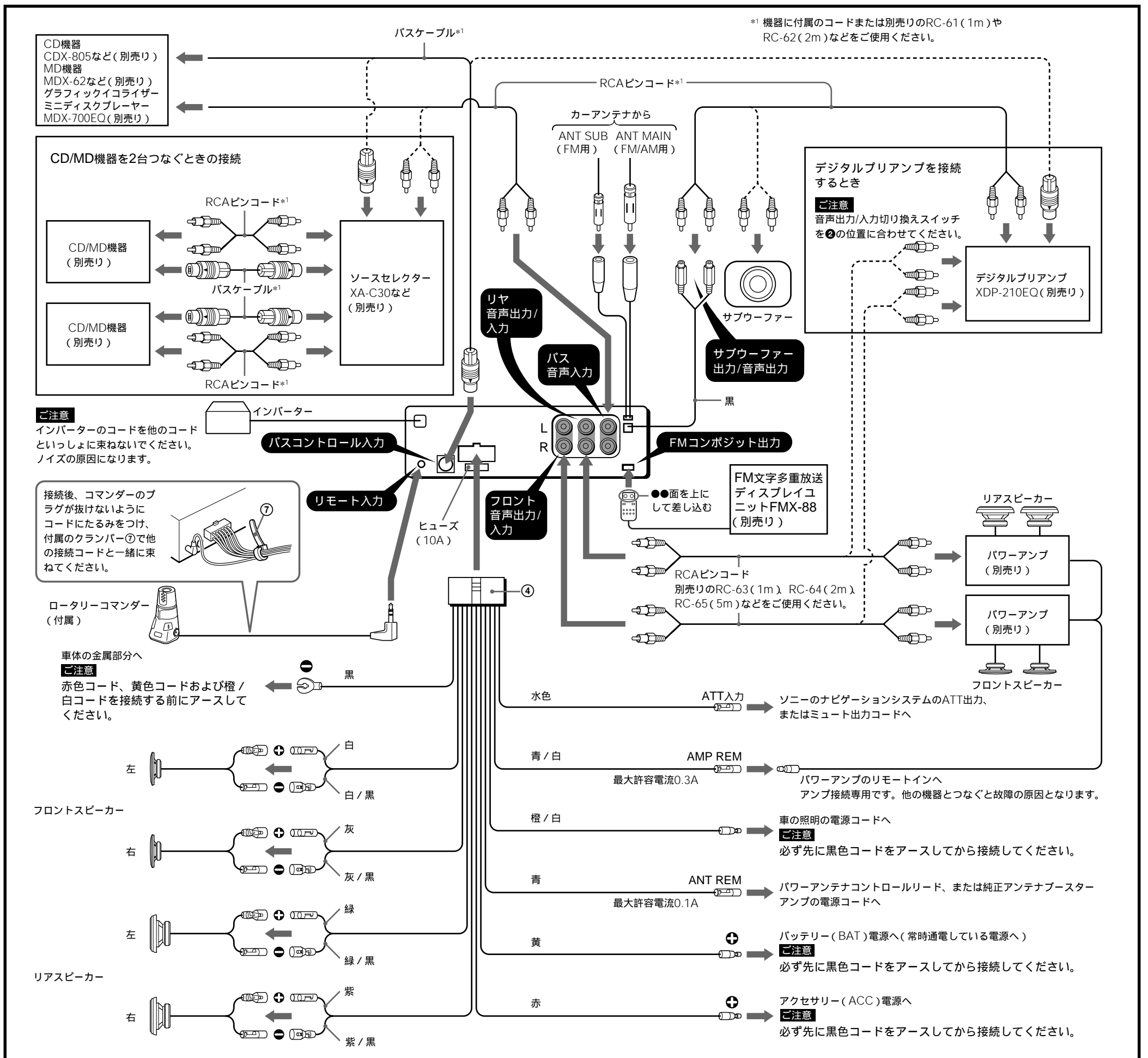


接続例4 音声出力/入力切り換えスイッチを②の位置にしてください。



接続例5 音声出力/入力切り換えスイッチを①の位置にしてください。





電源コードの色分け

赤色コード	アクセサリ(ACC)電源入力コード 車のキーをLOCKかOFFにすると電源供給が切れて、ACCにすると電源が入るところ(ラジオ回路など)に接続します。
黄色コード	バッテリー(BAT)電源入力コード 車のキーに関係なく、常時通電しているところでヒューズの容量値以上の電源が取れるところに接続します。本機のOFFボタンを押すか、イグニッションキーをOFFにすると、メモリー保持用の電流だけが流れます。
黒色コード	アース用コード 車体の金属部分に確実にアースしてください。
青色コード	<ul style="list-style-type: none"> パワーアンテナのコントロール出力コード ラジオのスイッチを入れたときに、このコードから12ボルトのコントロール用電源を供給します。くわしくはお手持ちのパワーアンテナの説明書をご覧ください。 純正アンテナブースターアンプの電源供給出力コード <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> リレーボックスの付いていないパワーアンテナは使用できません。 車側にパワーアンテナや純正アンテナブースターがない場合、あるいは、手動式のロッドアンテナの場合には接続の必要はありません。
青/白線コード	パワーアンプ専用のコントロール出力コード
橙/白線コード	イルミネーション電源入力コード 車のヘッドライト(スモールランプ)スイッチを入れたとき、本機のディスプレイが減光します。
水色コード	ATT入力コード ソニーのナビゲーションシステム(別売り)のATT出力またはミュート出力に接続します。

ヒューズ

- 本体の後ろにあるヒューズが切れたときは、配線などをチェックして必ず原因を確かめ、適切な処置をしてください。その後、ヒューズに記してある規定容量(アンペア数)のヒューズと交換してください。規定容量以上のヒューズや針金で代用することは大変危険です。
- 電源の黄色コードを接続するときは、本機のヒューズ容量が車両側(純正ラジオ用バックアップ電源)のヒューズ容量以下であることを確認してください。また、アンプなどを接続したシステムで使用する場合は、総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量以下であることを確認してください。もし車両側の容量が小さい場合はバッテリーから直接電源を引いてください。このことを確認しないと異常が生じた時、車両のヒューズが先に切れ他の機器が機能しなくなります。

スピーカー

- 本機のスピーカーコードにスピーカーを接続しない場合は、コードには何も接続しないでください。故障の原因になります。
- スピーカーを接続する前に、必ず本機の電源をOFFにしてください。
- インピーダンス4~8Ωのスピーカーをお使いください。
- 十分な許容入力を持つスピーカーをお使いください。許容入力の小さいスピーカーを使って音量を上げるとスピーカーを破損することがあります。
- スピーカーの⊕、⊖端子を車のシャーシなどに接続しないでください。故障の原因になることがあります。
- 本機のスピーカーコードどうしを接続しないでください。特に⊕端子どうし、⊖端子どうしを接続すると故障の原因になります。
- 既設の純正スピーカーコードを使う場合、左右のスピーカーコードの⊖側が共通になっているものは使用できません。そのまま使うと故障の原因になります。
- 本機のスピーカー出力にアクティブスピーカー(アンプ内蔵スピーカー)を接続すると本機を破損するおそれがあります。アクティブスピーカーを使用の際には接続にご注意ください。